



祝 叙勲



春の叙勲で、YMCAの2人の会員が受章されました。お2人に、そのご経歴などをうかがいました。(聞き手・文＝広報室)

受章が報じられた翌日、自身が載った新聞を持ってYMCAを訪れた。「多くの人に支えられてきたことを思い、感謝の気持ちがこみあげた」と言う。

YMCAとの出会いは60年前。高校生の頃、神田のYMCAの少年部で、今も東陽町のYMCAで、今も東陽町のYMCA



きよくしつしやうじゆしやう
旭日小綬章

佐野和夫さん (74)

元日本水泳連盟会長

で、キャンプや水泳、ハンドボールなどをした。大学で水泳部に入ってから、冬場はYMCAの室内プールで練習し、野尻や観音崎でキャンプのボランティアーでも続けた。その後も神田会館の建設委員などを務め、今も東陽町のYMCA

で泳いでいる。63年に日本鋼管(現・JFE)に入社。水泳を続けるつもりはなかったが、声がかかり、実業団のコーチになった。人を指導する立場になったとき、YMCAでのリーダー経験が活かされたという。27歳で監督に就任。やるからには頂点を極めようと、3つの目標をたてた。「日本新記録の樹立」「オリンピック代表選手の輩出」「チームの全国制覇」。最初は誰も信じなかったが、30年に及ぶ監督生活の中ですべて達成した。

95年に日本水泳連盟の役員になり、2001年には「世界水泳選手権大会福岡」の責任者を務める。134カ国から2450人が参加した日本初の世界大会で、資金集めなどにも奔走した。08年の北京オリンピックでは水泳選手団団長に抜擢され、北島康介選手の金2個を含む計6個のメダルを獲得。09年には同連盟会長に就任し、東京五輪・パラリンピックの招致にも貢献した。

退任後、日本知的障害者水泳連盟会長になった。「YMCAのプールではいつも隣で障がい者が練習していた。パラリンピックに向け、力になりたい」。工学博士でもある。職場では研究室に勤務し、米国に2年間、社命留学もした。母校の慶応義塾大学塾長だった小泉信三の「スポーツが与える三つの宝」『練習練習の体験』『フェアプレーの精神』『友は人生の宝である』が信条。スポーツだけでなく、人生の目標にチャレンジする人にとつての最高の指針と考え、文武共に努力し続けてきた。